

## 声 明

### ～ 萩原市長の退職不同意を表明するにあたって ～

本日、8月24日に開かれた岡山市議会臨時議会で萩原市長の退職申し出が提案・同意された。郵政民営化法案に反対した熊代昭彦氏の刺客として岡山二区で衆議院選挙に出馬するため市長を退職するということである。公職選挙法89条では在職中公職の候補者となることはできないとされ、同90条では届出により候補者となったときは法令の規定にかかわらず、その届出の日に当該公務員を辞したものとみなすとある。

岡山市は今43年ぶりの市民総参加で国体が始まっている大事な時期である。この6年間の萩原市政をみれば数々の失策を重ねた結果、課題が残されたままである。市長自らの意思で辞職し立候補することは自由だが、退職同意を議会に求められたことに対し、我が党市議団は任期途中で市民のくらしに係る重要な岡山市政を投げ出すことには同意できないということで反対をした。

ふりかえれば、ジャンプ台未払いに見られるように経営破たんをしたエックス社に市が異常な加担をするアクションスポーツパーク、感動産業と鳴り物入りで宣伝した3丁目劇場の失敗、明らかに特定企業の優遇策だとおもわれる約20億円も税金投入をした両備グレースタワーの再開発事業、榎東町公園疑惑、駅元再開発事業や旧出石小学校跡地プロポーザル、旧深砥小学校跡地問題、岡山操車場跡地開発の巨大プロジェクトなど数多くの課題が山積している。岡山市政をゆきづまらせた責任をとらないまま岡山市政を投げ出すことは無責任といわざるをえない。さらに保育園や救急車など国からの交付金はゼロという小泉・三位一体改革の影響で岡山市の財政は窮地にたたされている。

また、合併・政令市問題でも、退職を決めた後も周辺自治体にあらためて呼びかけたり、25日開催の政令市の民間推進会議の立ち上げに市長として参加して政令市実現を表明して退職するというのは関係自治体に対してもきわめて不誠実、無責任である。

なお、市長が批判した市長・市議分離選挙はやっと同日選挙にもどしたものの今後完全に分離選挙となり約9000万円の支出の無駄遣いをすることになる。

岡山市は財政的にも政策的にも行き詰まり状態である。それを招いた本人が任期途中で岡山市を投げ出すことは許されない。萩原市長は議会に同意をもとめるのではなくみずからの責任で辞職すべきである。よってわれわれは萩原市長の退職申し出に反対をする。

2005年8月24日

日本共産党岡山市議団